

私の一冊

こども学科 崔 美美 先生

キム・イナ 著 『ふつうのことばたち わたしたちの心をつなぐ』

小鹿図書館 924.14/Ki 38

皆さんは普段、どんなことに興味がありますか？私は、小さなときから他者との対話やかかわりに興味を持っていて、そこから他者を理解しようとしています（なかなか難しいですね）。今回の『ふつうのことばたち わたしたちの心をつなぐ』（キム・イナ著、たなともこ訳）は、私の興味関心について皆さんと一緒に読んでみたいと思い、選ばせていただきました。

著者であるキム・イナ（김이나）氏は、韓国でも有名な作詞家兼放送作家で、「韓国で最も愛されている作詞家」という修飾語とともに数々の賞を受賞しています。キム・イナ氏は幅広い世代とジャンルにわたって、大衆の心をつかみました。書籍『ふつうのことばたち』（日本語版）では、キム・イナ氏がこれまで大衆と緊密に交流してきた経験を活かし、私たちが人生で直面する複雑な感情や関係の悩みに対する解決策を日常の「ことばたち」の中で探っています。

キム・イナ氏は、「人間の言葉は文字として存在しているため、同じ言葉を使っても異なる感情が伝わったり、勘違いされたりすることもあります。これは他人だけでなく、自分自身にも当てはまります。習慣的にどんな言葉を使い、どんな表現をどんな状況で繰り返し使用するかは、生の質と生に向き合う態度に大きな影響を与えます。感情が言葉の額縁の中でのみ保管され、伝えられるならば、私はこの額縁についての話をしたかったのです。特定の「内容」について話すよりも、枠組みを共有することが、本当の自分を見つめ合い、互いを理解する道だと感じました。」（p.5）と本文のはじめに述べています。

今回、本書に書かれた「ことばたち」を吟味し、その意味を理解する中で、私自身の経験を振り返ることができました。特に、「アイデンティティ（ 정체성）」は、10代の頃から今に至るまで抱えている悩みでもあります。著者は、自分の本当の姿に混乱する時について、「配慮するからこそ、愛するからこそ、責任があるからこそ、ヒストリーがあるからこそ、私たちは時と場所により別の姿になるのだ」（p.151）と語ります。私の姿も、時や場所によって少しずつ変わっていくと思いますが、私の「態度」が変わるのではなく、どのように「対応」していくかを心がけたいです。

最後に、本書を通して、皆さんも「あなただけの言語を、あなただけの世界を眺めること」（p.4）ができれば幸いです。本文には、韓国語も書かれているので、日本と韓国の「ことばたち」のおもしろさをぜひお楽しみください。カムサハムニダ（감사합니다）。